

Title	企業買収後のマネジメントについて - 日本企業による海外企業買収後の人材戦略と組織戦略を中心に -
Sub Title	
Author	飯岡哲(lioka, Satoru) 石田英夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第810号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0810">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0810</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	飯岡 哲	主査	石田 英夫
		副査	鈴木 貞彦
			高木 晴夫
所属	石田 英夫 研究室		

企業買収後のマネジメントについて  
—日本企業による海外企業買収後の人材戦略と組織戦略を中心に—

近年、日本企業の海外進出が活発になっており、その1つの形態として企業買収が脚光を浴びている。しかし企業環境の変化により、日本企業による企業買収は転換期にさしかかっている。このような転換期に注目を集めているのが、企業買収後のマネジメントである。本論文の目的は、日本企業による外国企業の買収ケースを取り上げ、企業買収後、どのようなマネジメントを行えば、成果を上げられるのかについて検討することを目的としている。調査対象は、1980年以降、外国企業を買収した日本企業120社とした。調査方法は、質問調査表の配布とインタビューによって行った。

まず、文献研究を行い、買収後のマネジメントの重要性を確認する。そして、買収後のマネジメントを「影響度の高いマネジメント」と「影響度の低いマネジメント」の2つに分け、どのような状況において、これらのマネジメントが有効かを検証した。結果は、以下の通りである。買収企業の目的、被買収企業の収益性、そして、買収形態にかかわらず、「影響度の高いマネジメント」が成果を上げている傾向にある。部門別では、特に研究開発部門において、「影響度の高いマネジメント」が成果を上げている。また、買収後の政策では、解雇を行っていない企業が成果を上げている傾向にあり、情報交換によるコミュニケーション促進の重要性が指摘された。

今後、買収企業が買収後成果を上げるためには、被買収企業における情報網の確立と意思決定機構の明確化にあると考える。また、買収前の被買収企業に対する十分な調査も必要である。